

生理機能検査

- ・超音波検査 エコー検査ともいいます。超音波（エコー）は人間の耳には聞こえないほどの高い周波数音波を発信し、そこから返ってくる反射波を受信し画像を描出しています。
超音波（エコー）検査の対象となる臓器は肝臓、胆嚢、腎臓、膵臓、脾臓、膀胱、前立腺、婦人科領域、乳房、甲状腺、心臓、頸動脈、下肢血管などです。
この検査は浸襲性や放射線による被爆がなく、安心して受けていただけます。
- ・脳波検査 脳波検査はてんかんの診断と治療経過の判断に欠くことができない検査です。
てんかん発作の症状の変化や抗てんかん薬の効果による変化は脳波で経時的にみる必要が有ります。検査は頭部の表皮にいくつかの電極をつけて脳から出ている微弱な電流をとらえて記録し脳の機能的な異常を探るための検査です。
- ・血圧脈波検査 生活習慣病である糖尿病、高脂血症、高血圧、肥満などは動脈硬化の危険因子であり、進行すると狭心症や心筋梗塞、脳梗塞を引き起こす可能性があります。当院ではこの検査を動脈硬化のスクリーニングに用いています。検査内容は両四肢に血圧計をいて測定します。動脈硬化による血管の硬さを計測し血管年齢を推測します。
- ・呼吸機能検査 肺から出入りする空気の量などを測定して、肺の働き（肺活量等）を調べる検査です。
主に呼吸器系疾患（肺気腫・肺線維症・気管支喘息など）の診断に用いられます。
- ・心電図検査 両手と胸部に電極をつけて、心臓で発生する微弱な電流の変化を誘導し、波形図に記録します。
狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患や不整脈（心房細動等）などがわかります。
- ・24時間心電図（ホルター） 小さな心電図記録計を携帯してもらい、24時間の心電図を持続的に記録し、後日コンピューターで解析する検査です。
- ・運動負荷心電図（トレッドミル） 心臓に負荷をかけて、心機能や運動耐容能を調べる検査で、虚血性心疾患の診断、胸痛、動悸、息切れなどの原因診断などを目的としています。
- ・聴力検査 高音、低音、音の大小でどのくらい聞こえるかを検査します。
- ・視力検査

検体検査

- ・生化学検査 検査項目は、肝機能、膵機能、循環器、糖尿病、腎・泌尿器、などがあります。
- ・末梢血液検査 赤血球や白血球・血小板の数を測定し、貧血や炎症などがないかを検査します。
- ・血液ガス検査 血液中の酸素、二酸化炭素、酸性度や代謝性因子を測定します。
- ・血液型 ABO 式型、Rh 式型を調べます。
- ・輸血適合検査 血液型不適合による輸血障害を阻止するための検査です。
- ・血液凝固検査 PT・APTT の測定です。
抗凝固薬を服用されている患者様（心筋梗塞・心房細動・脳梗塞・静脈血栓症等）にとって、お薬の効果をみるために必要不可欠な検査です。
- ・検尿沈渣 尿の固形成分（赤血球、白血球、細菌等）を顕微鏡で調べる検査です。
- ・H b A 1 c 1～3ヶ月間の長期血糖を調べる検査です。
主に糖尿病患者様の血糖コントロールの指標に用いられます。
- ・その他、インフルエンザウイルス、ノロウイルス、レジオネラ菌、肺炎球菌、ピロリ菌、プロカルシトニンなども検査できます。